

令和6年度 政和会 行政調査報告書

1 調査年月日

令和6年8月6日（火）～8月8日（木）

2 調査項目及び調査地

【調査項目】

- ・行政経営について
- ・コミュニティナースについて
- ・京都市南部クリーンセンターについて

【調査地】

- ・兵庫県小野市
- ・京都府綾部市
- ・京都府京都市

3 議員名

会長 高間専逸
幹事長 野村尚志
議長 島田泰美
石田武史
芳賀理己
野村和宏
藤城正興

4 調査報告書

別紙参照

5 その他

兵庫県小野市行政経営視察報告

令和6年8月16日

小野市の概要

小野氏は、兵庫県東播磨地域のほぼ中央に位置しています。明治22年の市制町村制施行により小野村（のち小野町）、河合、来住、市場、大郁、下東条、福田の村が誕生しましたが、昭和29年12月1日に小野、河合、来住、市場、大部、下東条、福田の6つの町村が合併して市制を施行、昭和31年4月1日には河東郡社町の久保木、古川を編入し合併し、現在の小野市が誕生しました。

古くから、そろばんと家庭用刃物の生産地として順調な発展を遂げてきましたが、主要幹線道路の整備や新都市建設などを契機に、東播磨の中心都市として一層の飛躍を遂げようとしています。

面 積 93.84 平方キロメートル

人 口 47,006 人 20,761 世帯 令和6年3月31日現在

人口規模は兵庫県29市中17番目

年少人口割合 13.3% 県平均 12.2% 全国平均 11.9% 江別
11.1%

合計特殊出生率 1.46% 県平均 1.39% 全国平均 1.33% 江別 1.15%

人口千人当たり医師数 4.79 人 県 2.65 人 全国平均 2.51 人

小野市の産業構造

かつては「そろばん」と「家庭用金物」のまち

今は、工業団地の先端産業が市の財政を支えている

- ・ 市独自で整備した約 130Ha の工業団地はトップセールスにより完売
- ・ 更に県市共同事業で整備した「ひょうご小野産業団地」では全区画分譲が完了し、操業に向けた準備が進む。雇用者数 6 4 0 0 人超

小野市の財政状況

財政力指数 小野市 0.70 R4 年度 江別市 0.54

○ 財政力指数 地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数 値の過去 3 年間の平均値。 財政力指数が高いほど、普通交付税算定上の留保財源が大きいことになり、財源に余裕 があるといえる。

小野市の行政経営手法

「行政も経営」

経営手法導入の背景

企業戦士によるアナザーワンへの挑戦

「変えよう小野、変わろう小野」

「変えよう」とは自らがリーダーシップを発揮することであり、「変わろう」とは市民とともに行う「参画と協働」の実践である。

民間の感覚と感性による市政改革

平成 11 年 2 月民間出身の市長誕生を契機に変革のスタート。

掲げたキャッチフレーズは「破壊と創造」→「現状打破と新たな創造」

官と民の決定的な違い

- ・ 成果と報酬が連動しない社会
- ・ 画一的横並びの仲良しクラブ
- ・ CS 志向（顧客満足度志向）の欠如
- ・ 前例踏襲型施策遂行

不作為の連鎖を断ち切ることが重要

職員の意識改革と役所の風土を変える

- ・ どのような小野市にして行くのかという理念を明確に示さなければ職員の意識改革は起こらない
- ・ 意識改革が起こらなければ行動につながらない

小野市の行政経営の基本理念

一貫した基本理念

- ・ 「行政も経営」

より高度でより高品質なサービスをいかに低コストで提供するかを追求

- ・ ゼロベースでの発想でチャレンジ

「行政経営戦略 4 つの柱」

- ・ 顧客満足度志向 ・ ・ 市民を顧客と捉えた CS 志向
- ・ 成果志向 ・ ・ 何をやっているかではなく、何をなしえたかを問う
- ・ オンリーワン ・ ・ ここしかない小野らしさを追求

・後手から先手管理・・言われてからやるのではなく、言われる前にやる

ここまで記載してきた内容は民間企業の経営方針ではありません。およそ民間企業のものと見まちがうほどに民間の感覚を取り入れようとする理念であり行動指針であると考えます。

現市長が就任以前には財政再建団体への転落寸前の状況であったとのこと。

その状況から現在の財政力指数 0.70 までに回復した要因は、上記に記載した民間感覚の基本的考え方を市長の強力なリーダーシップにより推進し自治体全体が大きく変革へと舵を切ったことによるものと言えます。

市役所業務はサービス業であるとの認識と目標の設定と達成状況の把握に重きをおいており、それらを適切に評価・処遇することで職員の仕事に対するモチベーションの維持、向上に繋げている。

分かりやすく透明性のある人事考課制度の導入により、個々の職員が自ら目標設定し何をなすべきなのかを明確にしていることが大切だと考えます。

これら行政経営に必要な「人・物・金」を有機的に結びつけ一元的に管理することで、掲げた理念の達成に向けて全体が同じ方向を向いて前に進んでいるものと考えます。

まさに仕事を今のやり方で良いのか？他に良い方法はないのか？
常に問題意識を持つことで新たな発想で物事に取り組む姿勢を確立
させて来たものと思います。

その結果様々な政策、施策を前例踏襲ではなく新たなものとして捉
え、どのようにしたら成功するのか？成果を上げられるのか？
という思考で数々の成果を上げてきたものと思います。

これらの理念の周知、方針の実現が小野市において徹底されてき
た最大の要因は、現市長 蓬萊勉（ほうらいつとむ）氏が民間企業
の統括部長というオールラウンダー管理職を務めた経験と知見、そ
して強いリーダーシップによってブレることなく7期27年に渡って
推し進められて来たことによることが大きいと思います。

また、市民が7期にわたり市政を託したことは、この大きな変革、
お役所仕事を、民間の感覚による仕事へ変えていく政策の実現を支
持しているからに他ならないと思います。

民間企業はトップのリーダーシップによりその業績は大きく変わ
ります。

明確な目的、目標の設定とトップリーダーの力強いリーダーシッ
プ、そして職員のモチベーションが上がる適切な評価と処遇が「行

政経営」の成功の鍵であると結論付けられます。

江別市においても、様々な問題や課題が山積する中、少しでも民間の感覚による仕事への取り組みを進めることで問題解決のスピードアップとともに市民の皆さんの満足度向上にもつながるものと考えます。

以上

1. 調査年月日

2024 年 8 月 6 日(火)～8 月 8 日(木) (全日程)

2024 年 8 月 7 日(水) 綾部市

2. 調査項目及び調査地

【調査項目】

- ① この事業を始めた経緯について
- ② 組織体制について
- ③ 人員体制について
- ④ 地域企業とのかかわりについて
- ⑤ 現時点での成果について

【調査地】

綾部市役所

3. 議員名

(政和会)

会長 高間専逸

幹事長 野村尚志

議長 島田泰美

石田武史

芳賀理己

野村和宏

藤城正興

(無所属)

岩田優太

4. 調査報告書

別紙参照

5. その他

【綾部市の概要】

綾部市は京都府の中央北寄りに位置する田園都市です。市域面積は 347.10 平方キロメートルで、京都府の約 7.5% を占めています。地域の中央を流れる由良川に沿って発展したまちであり、その証拠に由良川沿いには古墳群が多く残っています。奈良時代に入ると、由良川河畔で桑が栽培され養蚕業が行われるようになりました。養蚕機織を主な仕事とする秦氏や漢氏がこの地に住み、「綾部」に地名も「漢部」と記されています。昭和 25 年 8 月 1 日に 1 町 6 村の合併による「綾部市」が誕生しました。

綾部市推計人口

区分 8 月 1 日現在

総数 30,120 人

男 14,453 人

女 15,667 人

世帯数 13,758 世帯

【調査項目】

① この事業を始めた経緯について

H29 年から「健康寿命の延伸」と「地域のつながり」を目的として、綾部市の事業として取り組みをはじめた。地域おこし協力隊の制度を活用し、3 人が着任し、8 年目となる。

② 組織体制について

担当課の管理者の役割

- ・ 進捗状況の確認や現状の確認を行う。また、地域おこし協力隊遠くから赴任していただくため不安があると思うので、精神面に気をつけている。個別面談やカンファレンスは随時実施している。
- ・ 企画運営プランの立案・実施・評価
- ・ 実働部隊の活動内容

③ 人員体制について

第 1 期 H29 年 4 月から R 2 年 地域おこし協力隊 3 名

第 2 期 R 3 年 12 月から 地域おこし協力隊 2 名 保健師 1 名

第 3 期 R 6 年 6 月から 地域おこし協力隊 3 名

③ 地域企業とのかかわりについて

JA からの要望を受けている

④ 現時点での成果について

- ・ 数字はない
- ・ 生活の中で健康意識が高まったり早期発見などが見込める
- ・ 自治会単位：12地区のうち3地区
- ・ 顔と顔が見える関係づくりに有効
- ・ コロナ禍で活動できなかった⇒個別訪問
- ・ 活動地域を広げていきたいが人材確保が難しいので地域を広げていけない

【コミュニティナースの活動内容】

- ・ コミュニティナースとは

看護師としての知識や経験を活かし、住民の健康づくりや地域のコミュニティづくりを支援する医療人材のこと。

- ・ コミュニティナースの位置づけ

会計年度任用職員（週28時間・週4日）として活動（土・日不定期出勤あり）

所属 定住交流部 定住・地域政策課

配置 上林地区振興支援センター（上林いきいきセンター）

報酬 1年目 162,300円（月額）

2年目以降 190,500円（月額）

職員手当 交通費の支給あり

※ 住居は市が一軒家を借用（月額50,000円）

【予算】

コミュニティナース事業費 10,730千円

人件費 8,780千円

住宅借上料 890千円

※地域おこし協力隊の活動経費は特別交付税の対象

【コミュニティナースの仕事】

コミナスの部屋：地域の公民館や集会所で体操や健康の話をし、誰でも参加できる場づくりを開催

個別訪問：困りごとや暮らしに変化がないかご自宅に訪問

健康相談：気になることの相談。必要時専門機関に繋げる

専門機関との連携：専門機関や保健福祉部門と連携し、切れ目のない健康づくりを支援

地域行事への参加：敬老会・クリスマス会・地域の草引き・餅つきなど

【対象者】

病気や年齢に関係なく乳幼児から高齢者までその地域に住むすべての方

【総括】

この事業は、看護師が地域に出て直接触れ合い、健康面に安心感を与えられる素晴らしい事業であると感じたが、地域おこし協力隊の活動として実施しているため、拡大が困難な事情にあった。江別市でも高齢化が進んでいる状況を鑑みると、中央から地域へ、病院・施設からご自宅や集う場へ、足を運ぶことが必要になると思われる。事業の構築は容易ではないが、実施可能な手段を考えて進めていくことの重要性をあらためて考える機会になった。

令和6年度 政和会 京都市南部クリーンセンター（さすてな）報告書

1 調査年月日

令和6年8月6日（火）～8月8日（木）（全日程）

令和6年8月8日

2 調査項目及び調査地

【調査項目】

環境問題の解決過程と現在の工場に建設に至った経緯について学び、江別市に於いても同様の施設を目指すことが可能であるか検証する。

- ・ 京都市南部クリーンセンターの設立経緯
- ・ 京都市南部クリーンセンターの特色
- ・ 京都市南部クリーンセンターの課題

【調査地】

京都市南部クリーンセンター（さすてな）

京都府京都市伏見区横大路八反田29番地

3 議員名

会長 高間専逸
幹事長 野村尚志
議長 島田泰美
石田武史
芳賀理己
野村和宏
藤城正興

4 調査報告書

別紙参照

5 その他

京都市南部クリーンセンター（さすてな）

目的

現在当市でも八幡地区にクリーンセンターを配置しており、延命化工事に着手しているところであり、今後の環境問題や延命化工事以降のクリーンセンターの在り方や発電設備など、先進地である京都府京都市にある京都市南部クリーンセンターを視察し、当市にも活用したく調査視察を行った。

京都市の概要

京都府の南部に位置し人口は約146万人で京都の中で最も人口が多い都市であり、札幌市に次いで内陸都市では多い人口である。

794年に首都となった平安京を基礎とする日本の中心であった時代を現在まで残した建物や日本の歴史文化の象徴的寺院や伝統芸能や産業などが、日本国内だけではなく世界の方達にも多く受け入れられ観光都市としての役割も大きく果たしている都市の一つである。

ものづくり都市としての一面も持ち38の大学、短期大学を有し、人口の1割が学生の街でもあり、全国最多のノーベル賞受賞者が輩出されている人的資源の豊富な街でもある

調査項目

① 京都市南部クリーンセンター（さすてな）の設立経緯について

・平成12年、京都市では年間82万トンのごみが出ており、クリーンセンターが5つあり、問題となっており平成22年を目標に39万トンという半分以下にするとりくみを始めました。実際には目標達成し現在は3つのクリーンセンターとなっております。5つの工場が3つになりコストや環境負荷が低減され、さらに将来にわたってごみの適正処理を継続する為、ごみ処理基本計画で体制を維持すべく旧第2工場は平成19年3月で休止を迎える予定でしたが、5工場が3工場となるにあたり時期がズレて令和元年10月稼働となった。

地元横大路地区との協議で「伏見ルネッサンスプラン」でごみ処理場だけではなく先進的な環境学習施設も併設することが必要であるということとなりこの施設が誕生した。

② 環境上の問題の配慮や工夫について

・公害防止対策としては、排ガス処理ということで、煤塵や窒素酸化物やダイオキシンや水銀の排出抑制処理や適正処理した後、下水放流している。地元との約束にて法律より厳しい基準を設けて処理している。排ガス処理の法的基準としては、ろ過式粉塵器と脱硝反応塔だけで、基準を達成できるが、さらに湿式ガス洗浄塔や活性炭吸着塔を通すことによりさらに有害物質を取り除いている。

③ 環境負荷低減について

- ・当初生ごみを一緒に焼却処分していたが、一括処分することで熱量が沢山必要となってしまうため、分別して生ごみは脱水機にかけて発電機の排熱を使って温水を作り発酵槽を温めて加温 55℃で常に発酵させてバイオガス化して発電燃料として使用し発電させることで無駄なコストをかけずに、環境負荷対策として取り組んでいる。

④ 公害防止に向けた地域との取り組みについて

- ・クリーンセンターと地元協定書を結んでおり重金属やダイオキシンなどにも配慮して公害監視盤を設置して客観的にリアルタイムで状況を確認できるように配慮している。毎年7月に地元と報告会を実施して現在の状況を共有している。

⑤ 今後の取り組み課題について

- ・現在小学生を中心とした社会見学を受け入れる施設となっていて、ごみの有効活用やごみが埋め立てられるまでをリアルに観察することができる大変良い施設であるが、ごみの削減により工場の稼働率がどのようになっていくかが懸念される。

総括

京都府のごみ問題は観光客の増加に伴いコロナ禍を経て増加しているが資源として分別償却しているため再生エネルギーとしての有効利用が可能となっている、また見学施設の充実が、ごみを幼い時から身近に感じられる体験型のプログラムとなっている為、実際親子で訪れても大人から子供までが楽しく学べる内容となっていて、江別のクリーンセンターにも是非取り入れてほしい内容である。今後江別市も現在クリーンセンターの延命化工事が行われているが、京都とは燃焼システムが違いどうしても炉に負担をかけてしまう仕組みとなっているので根本的な見直しや、現在の延命化工事後の焼却炉の在り方や埋め立ての方法なども真剣に考える必要があると考える。